

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：35308

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K11289

研究課題名（和文）保健師養成機関における地域防災対策推進のための教育ガイドラインの作成

研究課題名（英文）Development of educational guidelines for promoting regional disaster prevention measures at public health nurse training institutions

研究代表者

高尾 茂子（TAKAO, SHIGEKO）

吉備国際大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：10584485

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、国民の健康と生命、財産、生活を根こそぎ奪っていく災害の事前防災・減災に焦点をあて住民の生活の場に寄り添う保健師がその役割の一旦を担えるよう養成機関における教育ガイドライン作成にある。研究を通して防災・減災における災害に強い人と社会をつくれるようパーソナリティの変容に働きかける水の人としての保健師役割を明確にした。「災害が心にもたらすもの」は被災者へのダメージが大きく日常活動こそ防災・減災の活動手段であるが、災害多発時代に備えた防災・減災実践教育活動につながる保健師教育について保健師養成校の約4分の1が行っているにすぎず、教育推進のための教育内容基準の明確化が求められていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保健師は災害を含む健康危機管理の平時、発生時、回復期のどの段階においても役割を期待される。しかし看護師に比べて少数であり地域の全ライフサイクル、全健康レベルを対象とした活動であるため行政職員として日々の業務に忙殺されている。人々が憲法にのっとり個人の尊厳を保ちながら健康に生活できるようサポートしていくことが本来の保健師業務の基本理念であり、近年の災害多発時代における防災減災活動はどの活動にも優先して取り組まなければならない。防災減災活動が日常的に行えるような保健師養成は急務の課題であるがそこに焦点を置いた研究はほとんどみられない。そういう意味において本研究は社会的意義の大きい研究である。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the prevention and mitigation of disasters that completely deprive people of their health, lives, property, and livelihoods. In creation. Through my research, I have clarified the role of public health nurses as water people who work to change personalities so that people and society can be resilient to disasters in disaster prevention and mitigation. "What disasters bring to the mind" is a major damage to victims, and daily activities are the means of disaster prevention and mitigation activities. Only about one-fourth of the schools did so, and there was a demand for clarification of educational content standards for the promotion of education.

研究分野：高齢者看護学および地域看護学関連

キーワード：地域防災減災ガイドライン ヘルスプロモーション 平時の活動 水の人 保健師役割 保健師養成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでの災害看護は地震災害をベースとしたものが基本であり DMAT (災害派遣医療チーム)、傷病搬送後保健活動が開始されるというものであった。医療が不足する中で医療にかからなくて済むようパブリックヘルスが展開されるべきでありその点を踏まえた近年の動向の見直しも求められている。

(2) 東日本大震災の教訓から、釜石の奇跡と言われる日頃からの生活に根ざした防災教育による住民の防災意識の醸成こそ有効であり重要であるという文献はいくつもみられる。これらの防災教育の取り組みはまさにヘルスプロモーションの視点を取り入れた取り組みである。地域においても住民自身が学習意欲を高めエンパワメントしていけるような防災教育が必要である。

2. 研究の目的

(1) 「災害を未然に防止する」という防災の定義に焦点をあて、健康問題対策への予防を最も特徴とする保健師の活動の中にしっかりその定義と具体的活動を位置づけていく。→災害多発時代において、地域レジリエンスが求められている。そこで本研究は、保健師がその一端をにない、具体的にどのように働きかけ実現していくかを明らかにする。このことによって地域住民の生活に根ざした防災対策を実現できる健康教育や事業を実践できる人材育成が推進され、防災意識の具体的な向上、健康を守る住民活動の支援、ヘルスプロモーションの理念に沿った地域づくりが図れる。

(2) 地域住民が日常生活のなかで生活文化として定着していけるような防災意識の醸成が求められている。日常の様々な住民との関わりの場面で、「体験談を聞く」「演習的に図面を使って想像できるようになる」「メンバー間で対話を重ねる」等の手法で住民自身がエンパワメントし advocate 力を持てるようにサポートできる保健師を育てていくためにも、防災・減災活動における保健師役割の明確化が必要である。災害を未然に防止する防災の具現化として、日常の生活の場における地域防災意識の醸成を図ることは、今後重要となってくるので、健康問題の予防活動をメインとする保健師活動がその役割の一端を担えるよう、保健師養成機関における地域防災(水害を含む)対策推進のための教育ガイドラインの作成を行う。

3. 研究の方法

(1) 保健師養成機関における地域防災(水害を含む)対策推進のための教育ガイドライン作成のために、都道府県・市町村における看護職に求められる competency と看護職の育成ビジョン、災害看護活動におけるパブリックヘルスの最近の動向、生活に根ざした防災知識・防災対策 advocate の力をもった人材育成等について明らかにする。

(2) 文献検討は、地域防災知識・地域防災対策推進に関する内容を含んだものとする。

(3) 全国の看護系大学を対象とし、災害看護学に関する教育の実態について郵送法による自記式質問調査を実施する。調査内容は、防災に関する用語などの知識や対策についてどのような内容を、誰が、いつ、何年次生に対して、どの教科書を用いて行っているかなどとする。

(4) 複数県の 10 数名の保健師にインタビュー調査を実施する。研究成果から今後必要な「保健師養成機関における地域防災知識」を明らかにし、結果を踏まえ「防災対策の advocate 推進のためのガイドライン」を作成する。

4. 研究成果

(1) 健康問題対策への予防を最も特徴とする保健師の活動の中にしっかりその定義と具体的活動を位置づけていくための方法として、研究推進会議や、「公衆衛生における防災・減災と人材育成 災害に立ち向かう人づくり」のテーマでの研修会を開催した。研修会では、「災害に強い人と社会をつくれるようパーソナリティの変容に働きかける水の人を育てることがこれからの課題」「若い力やお年寄り、要支援者など支援される側、行政や関係団体、ボランティア等支援する側が「ごちゃまぜ」となって日頃から手を出して手をつなぐ努力をして、「ごちゃまぜ」の災害に強い地域を創れるよう、水の人を沢山育てていくことが必要」「個々の技能を磨きながら横繋ぎの新しい災害対応システムをつくりその中で保健師は接着剤のような役割を果たしてほしい」とその方向性を市民・関係者によびかけた。本事業を通して防災・減災における保健師の役割の方向性が示されたことは「災害を未然に防止する」という防災の定義に焦点をあて健康問題対策への予防を最も特徴とする保健師の活動の中にその定義と具体的活動を位置づけていくための大きな示唆となった。

(2) 「災害看護の授業テキストの防災知識・防災対策に関する記述の分析」について研究を行い、その結果災害時の保健師の役割、防災・減災について述べられているものは5社中2~3社であり、被災直後の活動が主であり、防災知識等の記述が行われている教科書は6割と防災減災の記述についても全テキストがカバーしておらず、防災・減災の詳細な記述には至っていないことが明らかとなった。保健師教育に防災・減災教育をどのように教授していくかについての今後の課題が示唆された。

(3) 保健師教育における「健康危機管理」では「広域的視点を踏まえて平常時から体制を整備し」とされているが看護教育の災害看護の授業にその教育が委ねられているのではないかと推測され、保健師の防災減災教育についての実態が明らかとなっていない。そこで全国の看護系大学277校を対象とし調査をした(回答率19%、うち大学の回答率75%)。結果、災害多発時代に備え防災・減災実践教育活動につながる保健師教育について、養成校の約4分の1が行っているにすぎず、教育推進のための教育内容基準の明確化が求められていた。

(4) 保健師の本来の役割は、予防にあり、災害発生前の事前防災減災での役割が大きいと考え「地域防災減災活動における保健師の役割」を明らかにするため、国内の保健師にインタビュー調査を行った。結果、地域防災減災における保健師の役割として、「命や暮らしをまもる」、「かかりつけ保健師」などが保健師の「本来の公衆衛生看護の役割」であること、「日常活動こそが防災・減災のための活動手段」であることが明らかになった。さらに「災害が心にもたらすもの」は非常に大きく、災害が発生すると「日常の課題が顕在化」し、平時の“弱さ”が災害に出てくること、「大規模災害の考え方」や、地域で「つながることが防災・減災」につながるため、ヘルスプロモーションの理念に沿った「市民中心の地域づくり」を進めることが重要であること、日常業務に追われ「保健師の多職種連携」がおろそかになりがちであることが課題であること等示唆された。

(5) 国内の定年退職前後の災害対応等経験豊富な保健師へのインタビュー調査結果、保健師に求められる健康危機管理に関する実践能力として既出4小項目に加えて「健康危機管理の人材育成教育計画を策定する」「健康危機地区診断」「健康危機の保健師IPW」「健康危機のメンタルヘルス支援体制を整える」の新たな4小項目が抽出された。特に今後は保健師の多職種連携の能力を高める等人材育成が保健師教育の課題であることが明らかになった。

(6) 研究調査結果を踏まえて、精神的健康に焦点をあてた「災害に強い地域づくり」のオン

ライン講座を開催し県内外から 70 名以上の参加を得た。

(7)保健師養成に関わる教員や現場の保健師等への防災減災活動の指標となるガイドブックを作成して配布した。さらに好評のため、2022 年度も追加作成配布した。

(8) 保健師の約 7 割が行政に属し、住民の命や健康、生活を守る立場にありながら、命や健康、生活を奪っていく災害に対して十分に予防の役割を担っているとはいいがたく、そのような能力を備えた保健師養成を行うことが本研究の柱となる。そこに焦点を絞った研究はほとんどないことが本研究から明らかとなったことは今後の研究への取り組み課題としての成果と考える。今後引き続き研究が繋がれていくことが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤田さやか, 中瀬克己, 澤田和子, 福岡美和, 横溝珠実, 高尾茂子
2. 発表標題 公衆衛生における防災・減災と人材育成を考える市民公開講座を実施して
3. 学会等名 日本災害看護学会第2回オンライン年次大会 2020年9月
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤田和子, 藤田さやか, 福岡美和, 横溝珠実, 高尾茂子
2. 発表標題 災害看護教育使用テキストの保健師の役割、防災・減災の知識・対策に関する記述についての文献検討
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会(ライブ配信、オンデマンド配信) 2020年12月
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高尾茂子
2. 発表標題 災害とうつ ~多職種連携による被災者支援~
3. 学会等名 第17回日本うつ病学会総会(ライブ配信、オンデマンド配信) 2021年1月(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮本純子, 西田万寿美, 山中弓子, 國松秀美, 高尾茂子, 神原咲子, 白井千津
2. 発表標題 西日本豪雨災害における「岡山看護-真備支援チーム-」の活動概要
3. 学会等名 第21回日本災害看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 臼井千津、西田真寿美、山中弓子、畠山典子、宮本純子、高尾茂子、國松秀美
2. 発表標題 どこでも起こり得る大水害に対する看護系大学が成すべき使命・役割
3. 学会等名 第21回日本災害看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横溝珠実、高尾茂子
2. 発表標題 公衆衛生看護学選択学生の平成30年7月豪雨災害におけるボランティア活動体験からの学び
3. 学会等名 日本看護研究学会中国・四国地方会第33回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigeko Takao, Sayaka Hujita, Miwa Hukuoka, Kazuko Sawada, Akemi Yokomizo
2. 発表標題 Role Recognition of Public Health Nurses regarding Disaster Nursing
3. 学会等名 World Association for Nursing Science, World Association for Disaster Nursing (国際学会) 2022 年
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高尾茂子
2. 発表標題 保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標に関する「平時からの健康危機管理能力」未出小項目の提案 災害を中心に
3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 2022 年12月
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中瀬克己, 高尾茂子, 澤田和子, 福岡美和, 横溝珠実, 藤田さやか, 細井舞子
2. 発表標題 保健師学校養成所における健康危機管理・災害看護の教育内容に関する実態
3. 学会等名 日本災害医学会 2023年3月
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

保健師養成に関わる教員や現場の保健師等への防災減災活動の指標となるガイドブックを作成して配布した。好評のため、2022年度も追加作成配布した。
高尾茂子, 室崎益輝, 神原咲子, 中瀬克己, 藤田さやか, 福岡美和, 澤田和子, 横溝珠実: 市民向け防災・減災ガイドブック「防災・減災の視点から公衆衛生を考えるガイドブック」, 2022.3、, 2023.3

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中瀬 克己 (Nakase Katumi) (00511552)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・教授 (35308)	
研究分担者	神原 咲子 (Kanbara Sakiko) (90438268)	高知県立大学・看護学部・教授 (26401)	
研究分担者	藤田 さやか (Hujita Sayaka) (00845951)	姫路大学・看護学部・講師 (34534)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横溝 珠実 (Yokomizo Akemi) (50846079)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・講師 (35308)	
研究分担者	福岡 美和 (Hukuoka Miwa) (30754436)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・准教授 (35308)	
研究分担者	澤田 和子 (Sawada Kazuko) (00368721)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・講師 (35308)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	室崎 益輝 (Murosaki Yositeru) (90026261)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関